

農業・農村情報整備・活用研究会 用語の定義（参考資料）

【地理情報システム（GIS）】	
G I S	<p>Geographic Information System の略で、地理情報システムのこと。地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
G P S	<p>Global Positioning System の略で汎地球測位システムまたは全世界測位システム等複数の呼称がある。人工衛星を利用して、地球上の三次元位置を正確に測定できるシステム。カーナビゲーションで位置測定などに利用されている。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
G - X M L	<p>GIS コンテンツや電子地図を XML に準拠した形で記述・通信・交換するための GIS コンテンツ等の相互流通に適したプロトコル。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
X M L	<p>eXtensibleMarkup Language の略。データの構造や意味を定義できるようにしたマーク付き言語で、HTML と同様に、タグとテキストで構成されているが、XML では目的に応じてタグを自由に定義できる。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
基本空間データ	<p>国土空間データ基盤で定義されている空間データ基盤に結びつけて利用される台帳・統計情報、主題図などのうち、公共的観点から必要性が高く、広く公開される可能性がある基本的な空間データ。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
空間データ基盤	<p>空間データのうち、国土全体の地勢や行政界などの基盤的な地図データや位置参照空間データ基盤データ「標準及び整備計画」では「空間データ基盤標準」として項目を標準化している。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
クリアリングハウス	<p>空間データの所在や内容を記述したメタデータを管理し、インターネットで検索可能にする仕組み。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
国土空間データ基盤	<p>国、地方公共団体、民間が整備している空間データのうち、基盤的なものを指国土空間データ基盤指し、「空間データ基盤」「基本空間データ」「デジタル画像」の3つの要素からなる。</p> <p>【出典：「GIS アクションプログラム 2002-2005」（地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議）】</p>
主題図	<p>ある特定のテーマを持った地図で、身の回りで見られるほとんどの地図がこれに属します。主題を表すための位置の拠りどころとなる基図の上に、主題の情報を表すのが通常行われる主題図の表現手法です。国土地理院の土地利用図、土地条件図は調査主題図の典型的なものですが、同縮尺の地形図を基図として使用しています。旧国土庁の地形分類図、地方自治体を作る水害ハザードマップ、地質調査所の地質図、環境省が作る環境関係の各種主題図等（例えば植生図、緑地現況図）も基図に地形図や地勢図が使われています。これは、基図の情報、特に詳細な地形や構造の情報が主題を読む際の手助け、あるいは付加的な役目をしてくれるためです。</p> <p>【出典：「地図と測量の Q & A」（財）日本地図センター】</p>

図形情報/属性情報

地理情報は対象物の空間における位置や範囲を表す情報と対象物の位置、形状以外の性質を表す情報からなっている。位置や範囲を表す情報を、図形情報あるいは幾何情報という。性質を表す情報を属性情報という。土地（筆）の形状は、図形情報であり、その土地の価格は属性情報である。

【出典：「市町村 GIS 導入マニュアル」国土庁土地局土地情報化監修情報システムによる市町村土地情報整備研究会編集】

大縮尺地図、中縮尺地図、小縮尺地図

地図の縮尺によっておおまかに3者に分けたときの、それぞれの名称です。

縮尺1万分1以上を大縮尺図、1万分1から10万分1までを中縮尺図、10万分1以下のものを小縮尺図と呼びます。

しかし、3者の境界の縮尺1万分1及び10万分1の値は絶対的なものではありません。また、「より大縮尺の地図」とか「より小縮尺の地図」のように相対的な比較の言葉として使うこともあります。

【出典：「地図と測量のQ & A」(財)日本地図センター】

地形図

地形図と言ったとき、それには二つの意味があります。一つは国土地理院が作成している一般図のうち、縮尺1万分1、2万5千分1、5万分1の3種のシリーズの地図を指す場合です。これは、国土地理院が作成している地図の中で、この3種の地図に「地形図」の名を冠しているため、国が作成した「製品名」であり、また、刊行して市場に流通させていますから「商品名」でもあるのです。残りの他の意味は地形図 (Topographic map) という言葉の意味から地図の内容が交通、都市・集落、土地利用・植生及び土地の起伏・水系等の地形の状況をそれぞれ定められた精度で詳細に表示しているものを地形図と呼ぶとするものです。地図の縮尺は基本的には拘束するものではありませんが、大縮尺図からおおよそ25～20万分1程度までのものと考えられています。

【出典：「地図と測量のQ & A」(財)日本地図センター】

地理情報標準

地理情報標準は、GISの基盤となる空間データを、異なるシステム間で相互利用する際の互換性の確保を主な目的に、データの設計、品質、記述方法、仕様の書き方等のルールを定めたもので、政府のGIS関係省庁連絡会議では政府の標準と位置づけ、率先して使用し、その普及をはかることとしています。

地理情報標準は、ISO/TC211(国際標準化機構の地理情報に関する専門委員会)で検討されている項目のうち、空間データの整備等に必要な基本項目について、ISO/TC211の国際標準(案)を基に、国土地理院と民間企業との官民共同研究により、平成11年3月に第1版、平成14年3月に第2版を作成しました。地理情報標準は、基になった国際標準案が国際標準確定後、順次JIS(日本工業規格)にしています。平成17年3月にはJIS化された最新の地理情報標準と国際標準に準拠し、内容を実利用に即して絞り体系化した、より実用的な「地理情報標準プロファイル(JPGIS)」を作成しました。地理情報標準を利用することで、データの定義・構造・品質・記録方法等を共通のルールで明確に記述した製品仕様書、中立的で共通のルールにしたがった交換標準となるデータを作成することができます。地理情報標準準拠で整備されたデータをGISで利用する場合には、一般的には各々のシステムの内部形式に変換して使用し、データ交換時には標準の形式で交換します。また、地理情報標準準拠の製品仕様書は、データ作成時には発注仕様書として、データ交換時には説明書として使用することができます。地理情報標準の利用が進むことで、データの相互利用しやすい環境が整備され、異なる整備主体で整備されたデータの共用、システム依存性の低下、重複投資の排除等の効果を期待することができます。

【出典：「地理情報標準とは」(国土地理院HP)】

デジタルオルソフォト(正射写真画像)

一般に、空中写真や衛星写真画像は、カメラが鉛直下向きを向いている保証がないので、写真上の縮尺は一定ではない。これに対して、オルソフォトでは、写真画像を数値的に処理して、あたかもカメラが鉛直下向きで無限遠から撮影したかのように画像データを修正する。地図が実際の地表から表現項目の取捨選択を行った図面であるとなれば、オルソフォトは実際の地表をそのまま写し出した絵であると言える。

【出典：「市町村 GIS 導入マニュアル」国土庁土地局土地情報化監修情報システムによる市町村土地情報整備研究会編集】

日本測地系、世界測地系

我が国では、改正測量法の施行前は、明治時代に採用したベッセル楕円体を使用していました。明治政府は、近代国家に不可欠な全国の正確な地図である5万分の1地形図を作るために、基準点網を全国に整備しました。この時採用された楕円体が、改正測量法の施行前まで使用されてきたベッセル楕円体です。そして、当時の東京天文台の経度・緯度が、天文観測により決定されました。この位置が現在の日本経緯度原点となっています。この測地基準系を「日本測地系」と呼んでいます。全国に設置された基準点の経度・緯度は、日本経緯度原点を絶対的な位置の基準として求められて行ったのです。

しかし、VLBI（数十億光年の彼方にある電波星から届く電波を電波望遠鏡で受信して数千kmもの長距離を数mmの高精度で測る技術）や人工衛星により地球規模の観測ができるようになった今日では、日本測地系は、残念ながら、地球全体によく適合した測地基準系であるとは言えなくなりました。

一方で、地球全体によく適合した測地基準系として、世界測地系が構築されています。

世界測地系とは、VLBI や人工衛星を用いた観測によって明らかとなった地球の正確な形状と大きさに基づき、世界的な整合性を持たせて構築された経度・緯度の測定の基準で、国際的に定められている測地基準系をいいます。

では、日本測地系は、世界測地系とどのくらい違っているのでしょうか？

例えば、日本測地系の経緯度で表されている地点を、世界測地系の経緯度で表わすと、東京付近では、経度が約-1.2秒、緯度が約+1.2秒変化します。これを距離に換算すると、北西方向へ約450mずれることに相当します。

【出典：「世界測地系移行の概要」（国土地理院HP）】

筆界

「筆界」とは、ある土地が登記された時にその土地の範囲を区画するものとして定められた線であり、所有者同士の合意等によって変更することはできません。これに対して、「境界」という語は、所有権の範囲を画する線という意味で用いられることもあり、その場合には、筆界とは異なる概念となります。筆界は所有権の範囲と一致することが多いのですが、一致しないこともあります。

【出典：「筆界特定制度に関するQ&A」（法務省HP）】

【個人情報】

個人情報

「個人情報」とは、生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいう。

【出典：個人情報の保護に関する法律 第二条】